

# 第2回懇話会「安全体感教育」

2011年3月8日、東デ協・青年懇話会の第2回懇話会「安全体感教育」を鹿嶋の住金マネジメント(株)テクノプラザにて参加人数28人で行われました。

「安全体感教育」は、座学やビデオではなく、受講者の感性に直接訴える教育で、実際に災害の疑似体験をしてルールを守らないと危険という事を身近に感じる事が出来ます。メディアにも数多く取り上げられ、13年間で延べ16万人の方が受講しています。現場を知り、過去の災害事例から安全についての本質を追究してきたスタッフの方々が教育を実施しており、設備内での挨拶はすべて仲間を守る合言葉「ご安全に」です。

高所危険体感コーナーでは、「安全帯ぶら下がり体感」、「5m墜落衝撃体感」、「安全帯衝撃体感」、「高所足場歩行体感」、「安全ネットによる墜落衝撃体感」、「飛来落下危険体感」、「梯子・脚立危険体感」を実施。



電気危険体感コーナーでは、「低圧電気危険体感」、「ビニールコード損傷危険体感」、「手持ち電気品危険体感」、「重機通過によるケーブル損傷危険体感」、「蛸足配線・過電流危険体感」、「トラッキング危険体感」を実施



その他危険体感コーナーでは、「重量物運搬腰痛危険体感」、「鉄板落下危険体感(安全靴)」を実施。



## ■安全体感教育参加者の感想

- ・日頃から安全には気を遣っていたが、実際に体感する事で今まで以上に安全への取り組みの必要性を感じました。
- ・安全装具に対して、ただ着用していれば良いという気持ちだったが、仕組みと効果に関して理解を深める事が出来ました。
- ・どの内容も実際に現場で発生したら重大な事故に繋がるので、疑似体験は大変参考になりました。
- ・落下危険体感で落下する物、高さに加え、重力がかかり何十倍もの重さになる事に驚きました。
- ・電気危険体感では、思っていたより身近な作業に危険があると感じました。
- ・感電を実際にするといった事はこのような場でしか体験できないので、非常に良い経験となりました。
- ・低圧電気体験で初めて電気を危険なものとして体感できました。
- ・腰を痛めない重量物の持ち方が参考になりました。
- ・会社の仲間や協力会社の人達にも是非この体感教育を受けて体験してもらい、皆で安全な環境を作り上げていきたいです。

## 安全体感教育を終えて

今回の研修は9時に東京駅を観光バスで出発して、実際の研修は午後からの半日コースでしたが、プログラムの内容が簡潔に纏められていて大変分かりやすい内容となっていました。ここの設備でないと体験できないものも随所にあり、安全に対する意識向上に繋がったと思います。参加頂いた方からも良い意見を頂戴しました。青年懇話会ではこのような研修会を今後も充実させていこうと考えています。

広報委員 西林 大輔 / (株)インテリアニシダ